

中央技術研究所が第3回 出張版「ENEOS子ども科学教室」を実施 ～未来の日本のエネルギーを担う子どもたちに、科学の面白さを認識してもらおう科学教室を開催～

記者各位

当社(社長:西尾 進路)の中央技術研究所(所長:岡崎 肇)では、3月8日(水)、9日(木)の2日間、研究所社員が地元横浜市の小学校を訪問し、第3回 出張版「ENEOS子ども科学教室」を実施しましたのでお知らせいたします。

「ENEOS子ども科学教室」は、科学・石油そして環境問題に対する当社の対応について楽しみながら理解してもらうために開催された課外授業です。本授業は2005年1月から開始し、現在までに中央技術研究所内において2回、出張版を2回、実施しております。

当社の若手研究員を中心に授業内容を作成し、「石油の大切さ」「二酸化炭素や二酸化硫黄が地球環境に与える影響」「環境負荷の軽減に向けた当社の取り組み」などについて、実験を交えながら説明を行いました。

授業に参加した子どもたちからは「ENEOSが石油以外にもいろいろなことをしているのを知ってびっくりした」「実験がおもしろかった。またやりたい」などの感想があり、石油、そして石油から生まれた技術・製品について興味を持ってもらうことができました。

今後もこのような活動の他、製油所見学会や修学旅行の会社見学などの社会貢献活動を通し、未来を担う子どもたちとのふれあいの場を提供してまいります。

記

1. 日時: 3月8日(水)、9日(木) 11:20～12:20
2. 場所: 横浜市立元街(もとまち)小学校(横浜市中区)
3. 対象: 5年生 約80名
4. 内容: (1) 石油の大切さ(当社作成「環境学習ブックレット」を使って説明)
(2) 二酸化炭素や二酸化硫黄が地球環境に与える影響
「バラの花」「生卵」を酸性雨に見立てた溶液に浸し、変化の様子を観察
(3) 二酸化炭素や二酸化硫黄の軽減に向けた当社の取り組みの紹介
環境ハイテク「ENEOS NEWヴァーゴ」、「燃料電池」の開発
(4) 構造色※についての説明と環境にやさしい「構造色を作る実験、

※構造色とは、光の干渉を利用した発色方法です。コガネムシの羽など自然界にも多く見られ、環境負荷の少ない着色法として注目されています。構造色を作る技術は携帯電話の液晶ディスプレイなどに応用されています。



出張版「ENEOS子ども科学教室」風景

以上

中央技術研究所の概要

1. 設立 : 1941年(昭和16年)

2. 所在地 : 〒231-0815 神奈川県横浜市中区千鳥町8番地

3. 所長 : 岡崎 肇

4. 敷地面積: 73, 461m²

5. 事業概要

当所は燃料油・潤滑油・化学品の品質向上のための研究を行っています。また、石油が持つ限りない可能性を引き出す、多種多様な新素材の研究(炭素繊維・液晶フィルム)など新しい分野でも着実な成果を上げています。

6. 現状研究領域

(1) 石油研究

石油精製、燃料油、潤滑油、燃料電池、化学品

(2) 高機能材料研究

LCフィルム、炭素繊維複合材料、バイオプロセス

(3) 分析技術開発

7. 活動基本方針

(1) 環境・将来品質に対応した技術開発・商品開発を推進し、石油本業の競争力強化に貢献すること。

(2) エネルギーの多様化に応える技術開発を推進し、新エネルギービジネスの創造に貢献すること。

(3) パートナー部門との連携、外部機関の有効活用により、新規分野の事業化・事業拡大に貢献すること。